

令和2年2月3日

甲斐市議会議長 清水正二様

創政甲斐クラブ 会長 内藤久歳

視察研修報告書

- 1 日程 令和元年11月5日(火)～7日(木)
- 2 場所 岡山県高梁市 兵庫県姫路市 兵庫県小野市
- 3 参加者 藤原正夫 内藤久歳 山本英俊 長谷部集 赤澤 厚(5名)
- 4 欠席者 無(0名)

【研修先概要】

1 岡山県高梁市

高梁市は岡山県の中西部に位置し、広島県と境を接する。県下三大河川の一つ高梁川が中央部を南北に貫流し、支流の有漢川、成羽川が合流する。その両側に吉備高原が東西に広がっており、地勢は西に高く東に低く、河川に沿った帯状に曲折した低地部と高原部に至る傾斜部と高原部分からなっている。

○面積 546.99平方キロメートル

○人口 30,207人

○世帯数 14,529世帯 (令和元年11月現在)

2 兵庫県姫路市

姫路市は兵庫県の南西部に位置し、瀬戸内海に面している。中核市に指定されており、周辺自治体を含めて約74万人の姫路都市圏を形成する。兵庫県内第2位の商工業と人口を擁する都市であり播磨地方の中心。世界遺産である白鷺城こと姫路城で知られ、姫路城を中心とした観光施策に力を入れている。

○面積 534.35平方キロメートル

○人口 530,288人

○世帯数 221,389世帯 (令和元年11月現在)

3 兵庫県小野市

小野市は、東播磨地域のほぼ中央に位置し、昭和31年の合併が最後で、平成での合併は行わなかった。県庁所在地である神戸市と播磨地方中心都市である姫路市の二大都市のほぼ中間に位置し、両市のベッドタウンとしての機能を持っている。また兵庫県で有数の伝統工芸都市として知られ、古くからそろばんと家庭用刃物の生産地として順調な発展を遂げた。播州鎌は兵庫県の伝統的工芸品にも指定されている。

○面積 92.94平方キロメートル

○人口 48,512人

○世帯数 20,093世帯 (令和元年11月現在)

【研修報告】

1 岡山県高梁市 防災行政・防災ラジオ貸与事業研修

□研修目的 防災行政について・防災ラジオ貸与事業について

□研修日時 令和元年11月5日(火)午後1時30分～午後3時

□研修場所 岡山県高梁市 高梁市役所

□研修概要 一昨年に発生した西日本豪雨災害における対策本部の対応やその後の復興計画。また高梁市が独自で行っている防災ラジオ貸与事業について、制定に至る経緯や事業内容について研修した。

■研修内容 ○西日本豪雨災害の対応

・主な被害状況

死者2人、行方不明者1人、重傷3人

全壊59戸、大規模半壊81戸、半壊203戸、浸水土砂被害217戸

事業所の被害申告232件(被害額約51億2千万円)

公共施設被害2,494件(被害額約74億4千万円)

農林施設被害578件(被害額約11億5千万円)

・避難所及び避難者数

7月6日 29箇所 2540人

8日 10か所 298人

9日 6か所 184人

11日 2箇所 90人

8月7日 1箇所 9人

・ボランティア受入

7月9日～29日 ボランティア受入件数約3,100人

○復興計画の策定

計画期間は10年間（復旧期；3年、復興期：4年、発展期：3年）とし、総合計画との整合性をとる。

【主な復興事業】

・災害復旧：道路、農地、河川、学校等（77.6億円）・被災家屋解体（1億円）・水道施設浸水対策（3.9億円）・水道施設濁度対策（8.9億円）・雨水ポンプ整備（18.6億円）・救助用ボート、救命胴衣整備（7百万円）

○防災ラジオ

屋外拡声機では声が届かない地形的な状況（中山間地かつ盆地）を勘案し、個別受信機である防災ラジオを計画した。高梁市ではケーブルテレビのデータ放送やメール配信サービス、防災行政無線など、複数の情報伝達手段を行っているが、それらの補完的な手段の一つとして行う。それに伴い老朽化した防災行政無線は廃止にした。

・到達性と建物内への浸透力に優れるポケベル波を利用。中継局が不要で、操作設備もPCのみ。文字情報を入力送信し、防災ラジオで音声化するため音声非常に明瞭。緊急時は最大音量で放送。設定により地域単位での放送が可能。

・事業経費 1億1,188万8千円

個別受信機購入費用 1台 18,000円

〃 文字表示付 1台 31,500円 ※聴覚障害者向け

年間維持費 約800万円

・希望世帯には世帯あたり1台を無償貸与、その他指定避難所、消防団協力事業所、福祉施設、保育施設等に1事業所あたり1台を無償貸与

・11月1日現在の導入率 44.1%

■感想 豪雨災害の対策においては、釜無川や荒川など多くの河川を有する甲斐市にとっては対岸の火事ではなく、いつ襲われても不思議ではない状況であり、今回の研修は非常にためになったと同時に、改めて災害の怖さを思い知った。

また、防災ラジオについては、甲斐市にとって非常に有効な手段であると感じた。旧双葉町ではオフトーク通信があったが現在は廃止されており、中山間地が広がる北部地域にとっては、防災行政無線より優れている点が多い。特に悪天候時は拡声器の音は聞こえづらく、豪雨災害の対策においては、より有効であるとわかった。

今後は市当局への要請を強く行っていくものとする。



高梁市議会加藤事務局長挨拶



創政甲斐クラブ内藤会長挨拶



研修資料



高梁市職員名刺



研修会場風景



防災ラジオを説明する職員



議場



庁舎玄関前



庁舎

2 兵庫県姫路市 姫路駅周辺整備研修

- 研修目的 姫路駅周辺・南北市街地整備事業について
- 研修日時 令和元年11月6日(水)午後1時30分～午後5時
- 研修場所 兵庫県姫路市 姫路市役所(姫路市議会棟)
- 研修概要 姫路駅周辺整備事業の全体概要やこれまでの経緯など。特に姫路駅北駅前広場キャッスルガーデン(北広場)の活用について、これまでの取組や施設整備の概要、またイベントなど活用方法の詳細について研修した。

■研修内容 ○キャストィ21計画の概要

キャストィ21とは、英語の「キャッスル(城)」と「シティ(都市)」に21世紀を合成したもので、平成2年に一般公募による愛称募集を行い、姫路駅周辺地区整備事業の愛称名として命名したものです。

計画地区が東西に長く、既成市街地が含まれていることから、市の将来を担う高次都心機能地区をメインエリア、都心周辺の良好な市街地整備の先導地区をサブエリア、既成市街地をベースにした市街地再整備のモデル

地区を一般エリアとして、3つのエリアに区分し、エリアごとに異なるコンセプトで整備した。さらにエントランスゾーン、コアゾーン、イベントゾーンに分け、土地の高度利用を図るとともにゆとりと潤いのある都市空間の形成を図った。

○姫路駅北にぎわい交流広場の利活用

再整備される駅前広場を利活用できる広場にすることを目指して

H22年～ 広場活用を考えるNPO法人等の主催により、市民ワークショップ、フォーラム等の開催、社会実験を実施

H23年10月 官民協働による姫路駅前広場活用連絡会の立上げ

H24年4月 姫路駅前広場活用協議会に改称、利活用に向けた検討、社会実験を実施

H25年8月～27年3月 市が駅前広場活用社会実験「チャレンジ駅前おもてなし」を協議会と連携し実施

H27年4月 姫路駅北にぎわい交流広場条例を施行→本格的利活用開始
「城を望み、時を感じ、人が交流するおもてなし広場」
市民にくつろぎとにぎわいの空間を提供し、市民相互の交流と中心市街地の活性化を図る

○姫路駅北にぎわい交流広場の稼働状況

現在の稼働率は、平日で85%以上、休日は95%以上を維持し利用内容については、約50%が音楽系イベント（ライブ、ダンス）、約40%が販売系イベント（マルシェ、雑貨、美容等）として利用され、全体の約9割をしめている。その他は展示会、企業PR、オープンカフェ、公共使用（市、県等）で状況は最近数年、大きな変化が見られないことから、当面はこの状況が維持できると考えている。

○運営面での課題

- ・音楽系イベントが多く、音量面でのクレームにつながる。
- ・広場完結型のイベントが多く、中心市街地の回遊性が低い。
- ・使用料が安く、許可件数の割に収入が上がらない。また安いと、気軽に利用でき、自己満足のようなイベントが多くなる。
- ・的屋排除もあり火気の使用を禁止している。そのため食のイベントが難しい。（今年7月からディーゼル型発電機を認めた）
- ・貸出備品、備品倉庫、十分な電力量が確保できていなかったため、利用者の意見を聞きながら備品拡充、電源コンセント増設などを行っている。

○今後の取組

- ・民間活力による効果的、効率的な広場運営を行うため、指定管理者制度の導入に向け検討準備を進めている。
- ・将来的に駅前広場や大手前通りを中心とした中心市街地においてタウ

ン・エリアマネジメントを行うための組織・仕組み作りを行う。

■感想 甲斐市にもJR駅が2駅あり、特に竜王駅は本市の玄関口であると同時に、中心市街地として賑わいを期待できるものである。研修先の姫路駅及び周辺市街地は比較にならないほどの大きな規模であったが、広場の活用においては参考になることも多かった。特に運営上の課題や問題点については本市の様々な施設でも考えられることであった。



姫路市議会事務局挨拶



研修資料



姫路市職員名刺



歓迎のミニのぼり



研修会場風景



説明する駅周辺整備室職員



説明する中心市街地活性化推進室職員



姫路市議会棟玄関前



姫路市議会棟

3 兵庫県小野市 地域支援事業研修

- 研修目的 地域のきずなづくり支援事業について
- 研修日時 令和元年11月7日(木) 午前10時30分～午後12時
- 研修場所 兵庫県小野市 小野市役所
- 研修概要 地域のきずなづくりを支援する取り組みとして、町・自治会が行う諸活動に対して補助金を交付する「地域のきずなづくり支援事業」について、その

経緯や内容について研修した。

■研修内容 ○事業創設に至る経緯

人口減少や少子高齢化により地域コミュニティの稀薄化が加速化している。そこで高齢者等地域コミュニティ活動拠点づくり事業（H23～H27年度）を行った。この事業は居場所づくりを目的にしており、自治会館のバリアフリー化や備品購入などに補助を行った。

拠点づくりが一段落したことで、次のステージとして行ったのが「地域のきずなづくり支援事業」である。

○事業の概要

- ・趣 旨：地域活動の創設、自治会の諸活動を支援
- ・補助対象：市内自治会（最寄りごとの申請も可能）
- ・補助要件：拠点づくり事業を実施している。同事業で必須改修がなされている自治会館等を所有している。
- ・補助額：月2回以上（年間24回以上） 5万円
月4回以上（年間48回以上） 10万円
※計画書提出時点で補助金を先払い。
※実績報告書に領収書添付不要。
活動の活発化に伴い、さらに10万円の増額が可能。（領収書の添付が必要）
『やる気のある自治会には支援を惜しまない！』
- ・補助対象経費：報償費、需用費〔消耗品、燃料、食料（茶菓子程度）〕
役務費、使用料及び賃貸料、原材料費

○事業のねらい

- ・申請書、報告書はできるだけ簡素化し、自治会長の負担を軽減
- ・自治会の主体性を重んじ、行政は口を挟まない
- ・この事業の広がりが市施策に与える影響を知るバロメーターに

○補助活動の事例

- ・社会奉仕活動：花いっぱい運動、道路及び側溝の清掃、草刈り
- ・健康増進活動：いきいき100歳体操、グランドゴルフ、囲碁ボール
- ・教育講座開催活動：救命訓練、防災訓練、各種教室

○事業の成果と課題

- ・活動の種類が増え、地域住民が集まる機会が多くなり、きずなづくりのきっかけに寄与している。
- ・市の他事業（いきいき100歳体操、花いっぱい運動など）への参加が増加し、市の施策に影響をもたらしている。
- ・補助金がなくなった時、活動が継続されているか未知数。
- ・自治会活動での三世代にわたる交流が活発化。

■感想 強く感じたことは、自治会の主体性を重要視していることである。公的補助にありがちな、強い監視や申請などの過剰な事務処理を全く行っておらず、市民を信頼し伸び伸びと活動ができる環境を作っている。

甲斐市にも参考になる事例はたくさんあったが、地域独自の方法でやる気のある市民に、活動の拠点と補助金を惜しみなく提供することが、何よりも重要で、成功につながることでありと理解できた。

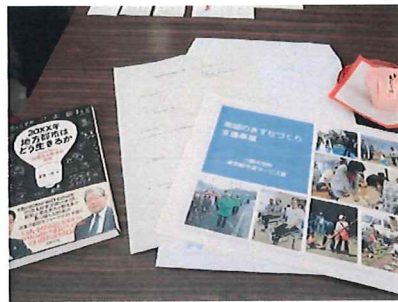
またこの研修には小野市議会の議員が数名傍聴しており、川名議長の説明では、自分の市の施策を改めて聞くことで理解を深め、他市議会議員による客観的な考えに触れ活性化することを期待しているそうである。当市議会においても検討に値するものとする。



小野市議会川名議長挨拶



創政甲斐クラブ内藤会長挨拶



研修資料



小野市職員及び傍聴議員名刺



研修会場風景



研修会場風景



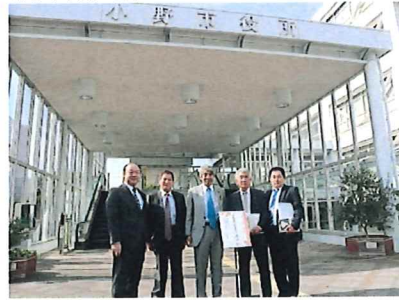
研修会場風景



説明職員（前列）と傍聴議員（後列）



議場



庁舎玄関前



庁舎玄関前の歓迎看板



庁舎